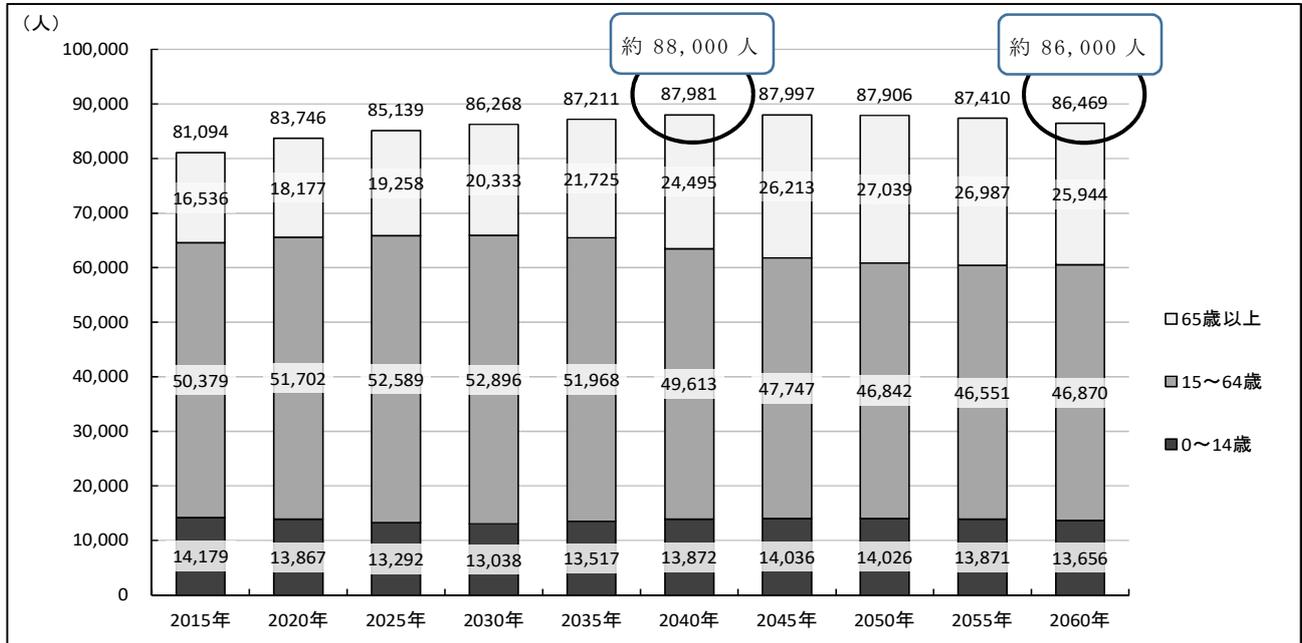


1 守山市の現状について

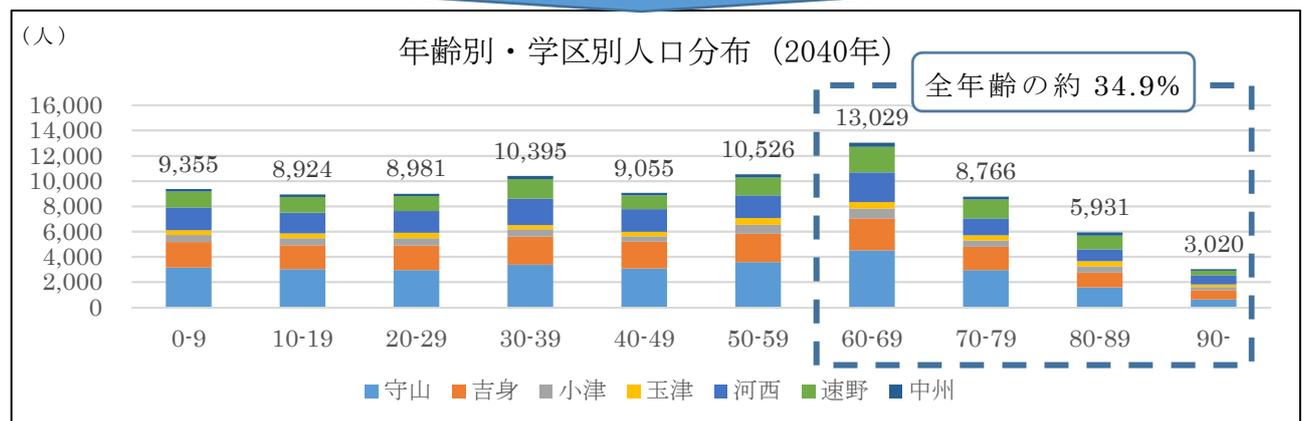
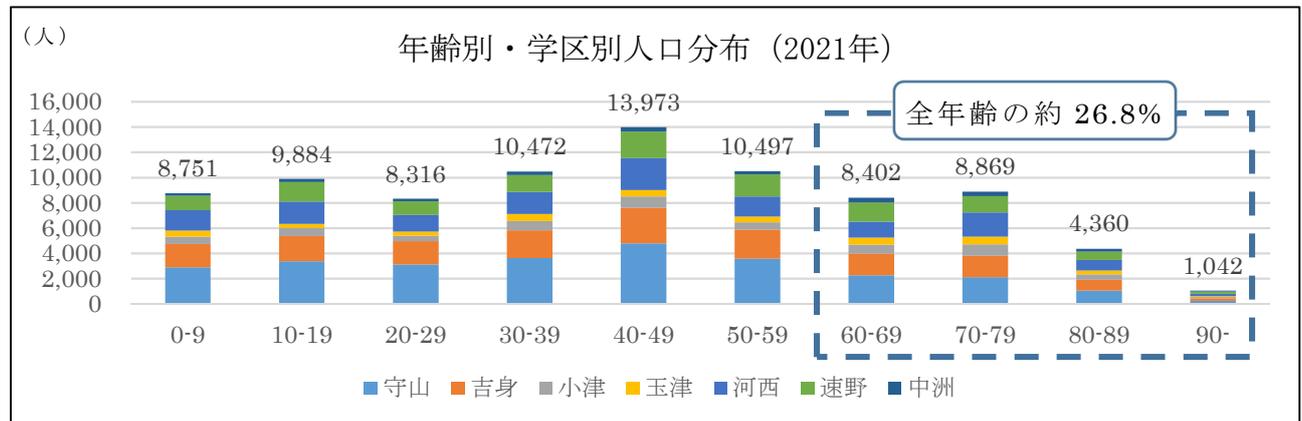
(1) 年齢階級別人口の分布および推移(守山市人口ビジョン)

- ・ 守山市人口ビジョン(令和2年改訂版)では、2021年3月末の人口84,566人に対し、**2040年に約88,000人**、2060年に約86,000人の人口維持を目指している。



資料：守山市人口ビジョン(令和2年改訂版)より抜粋

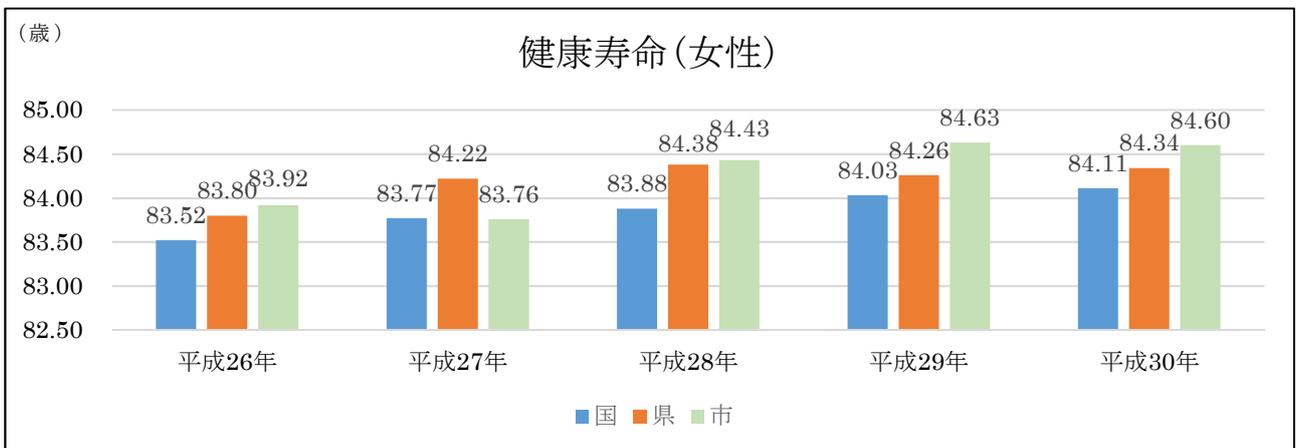
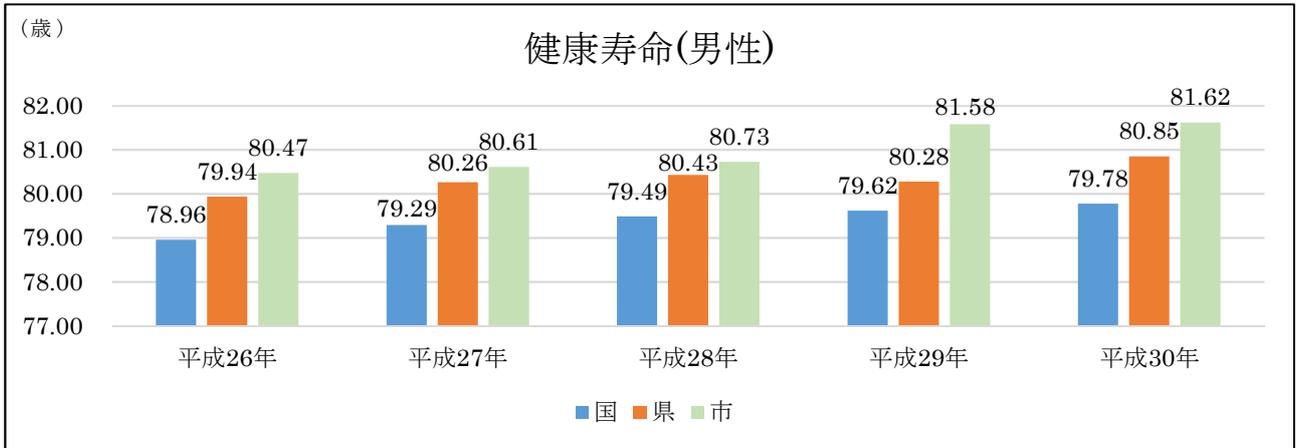
- ・ 高齢者がピークを迎えるといわれる2040年は、2021年の高齢者(60歳以上)割合である約26.8%と比べ、**約34.9%(+8.1ポイント)**と推測されている。



資料：守山市人口ビジョン(令和2年改訂版)より抜粋

(2) 健康寿命について(第2次健康もりやま 21)

- ・本市の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は、男女ともに年々延伸しており、国・県を上回る状況となっている。



参考：国・県は滋賀県衛生科学センター「滋賀県健康づくり支援資料集」より抜粋

(3) 死亡総数・主要死因数（データヘルス計画）

- ・県、草津保健所、本市の主要死亡数では、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患が多く、いずれもが生活習慣病に起因している。

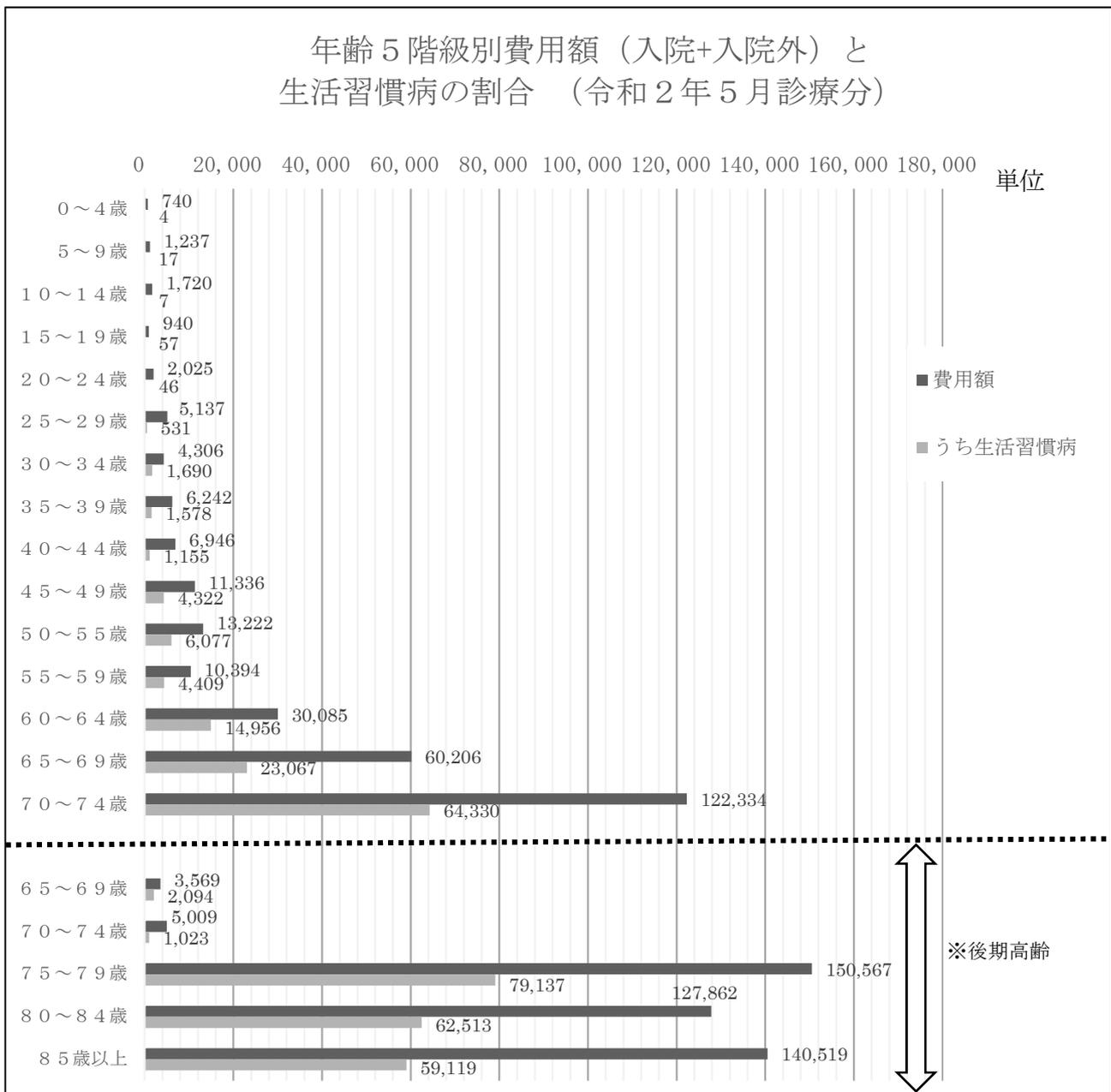
生活習慣病が起因

	死亡 総数	悪性 新生物	心疾患	脳血管 疾患	老衰	肺炎	不慮の 事故	腎 不全
県	13,221	3,646	2,005	955	1,154	714	424	271
草津 保健所	2,503	743	359	175	174	118	91	43
守山市	633	159	84	43	46	32	19	18

参考：滋賀県南部健康福祉事務所(滋賀県草津保健所)令和元年度版より抜粋

#### (4) 医療費の分布（データヘルス計画）

- ・年齢5階級別医療費（保険者負担額）は年齢が上がるに従い費用額が高くなり、40～44歳が約700万円に対し、70～74歳が約1億2,233万円と約17.5倍の費用額となっている。
- ・全体の費用額のうち、生活習慣病（悪性新生物・循環器疾患・糖尿病・腎不全対象）の割合は、約44%と生活習慣病を起因とした費用が高くなっている。



資料：国保データベースシステムより  
※後期高齢者医療制度加入者分

(参考：要介護度別にみた介護が必要となった主な原因)

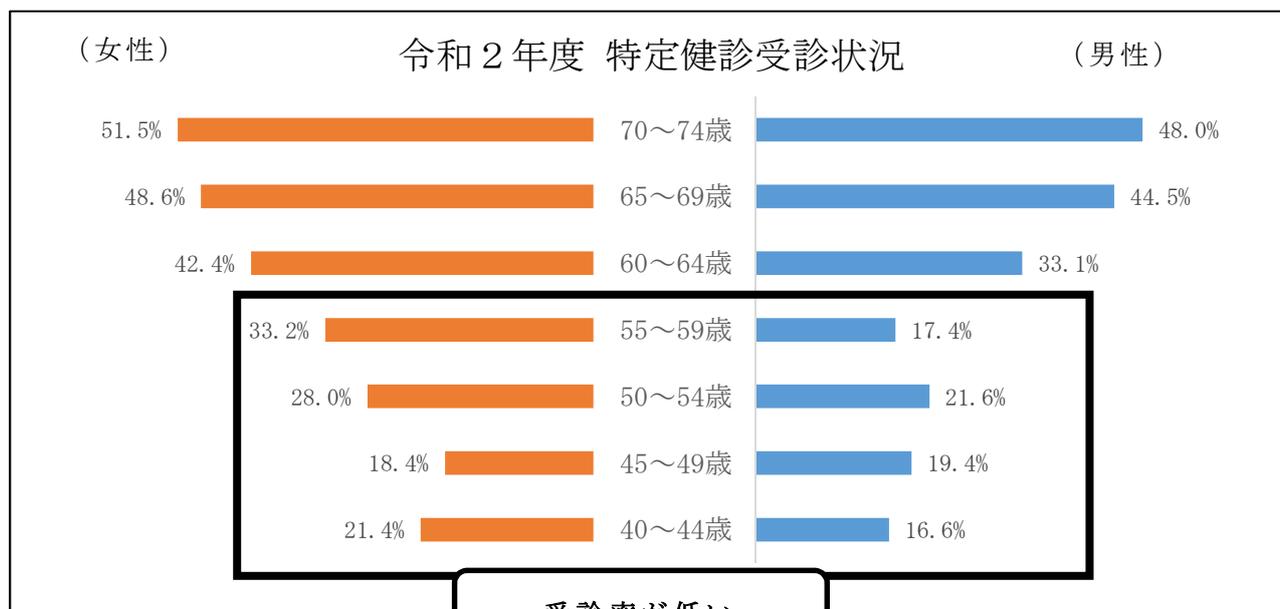
要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	17.6	脳血管疾患(脳卒中)	16.1	高齢による衰弱	12.8
要支援者	関節疾患	18.9	高齢による衰弱	16.1	骨折・転倒	14.2
要支援1	関節疾患	20.3	高齢による衰弱	17.9	骨折・転倒	13.5
要支援2	関節疾患	17.5	骨折・転倒	14.9	高齢による衰弱	14.4
要介護者	認知症	24.3	脳血管疾患(脳卒中)	19.2	骨折・転倒	12.0
要介護1	認知症	29.8	脳血管疾患(脳卒中)	14.5	高齢による衰弱	13.7
要介護2	認知症	18.7	脳血管疾患(脳卒中)	17.8	骨折・転倒	13.5
要介護3	認知症	27.0	脳血管疾患(脳卒中)	24.1	骨折・転倒	12.1
要介護4	脳血管疾患(脳卒中)	23.6	認知症	20.2	骨折・転倒	15.1
要介護5	脳血管疾患(脳卒中)	24.7	認知症	24.0	高齢による衰弱	8.9

資料：2019 国民生活基礎調査資料より

健康寿命算出対象外

#### (5) 特定健診受診率（データヘルス計画）

- ・ 特定健診受診率は男性では40代・50代の受診率が低く、女性では40代から50歳代前半までが低い。男女ともに、65歳以上で4割を超える受診率となる。



受診率が低い

資料：国保データベースシステムより

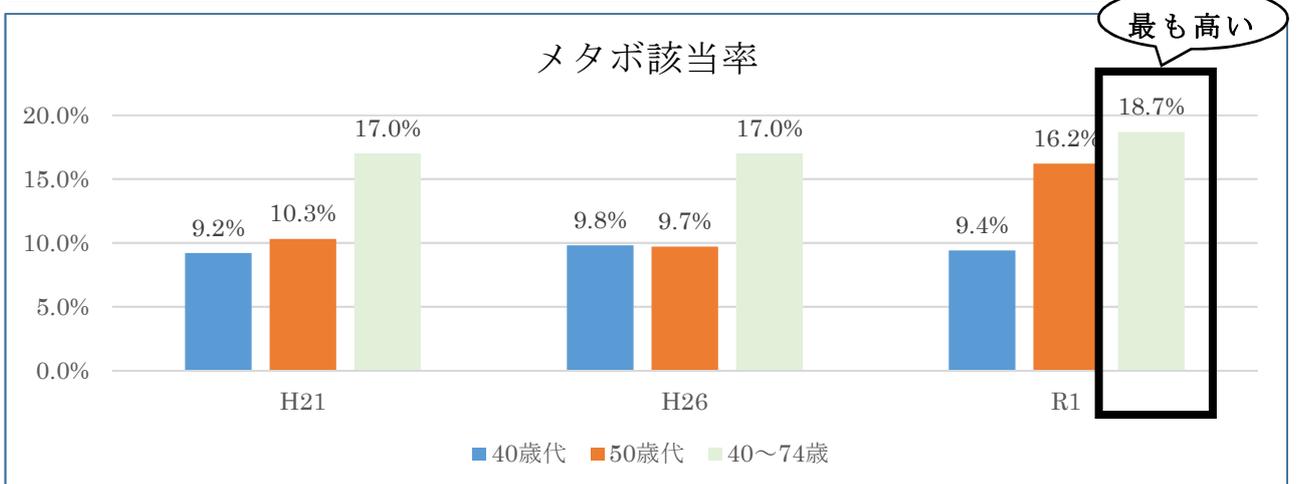
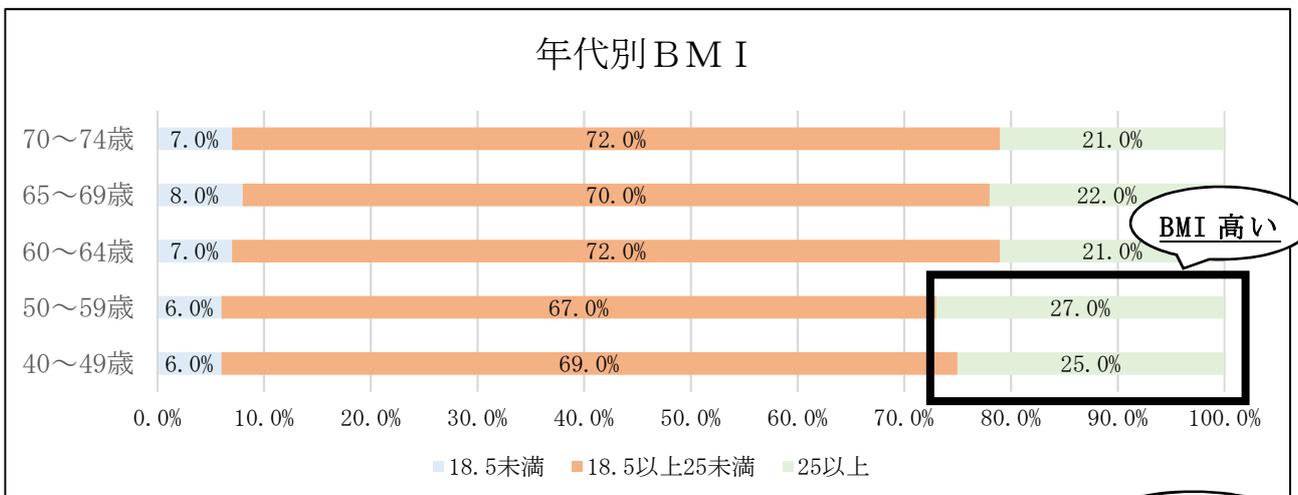
(6) 特定保健指導実施率および特定保健指導対象者減少率（データヘルス計画）

- ・令和元年度の特定保健指導終了率は計画の目標値(48%)を超えている状況である。
- ・特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率は、県や国と比較し高い状況で、令和元年度は3人に1人が改善している状況である。

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
全体 (動機付け 積極的含む)	対象者	360 人	354 人	337 人
	終了者	189 人	192 人	174 人
	終了率	52.5%	54.2%	51.6%
特定保健指導対象者減少率(市)		27.2%	29.9%	32.1%
" (県)		22.7%	22.4%	20.5%
" (国)		21.7%	21.3%	21.0%

(7) 年代別BMI（25.0以上の者）およびメタボリックシンドローム該当率

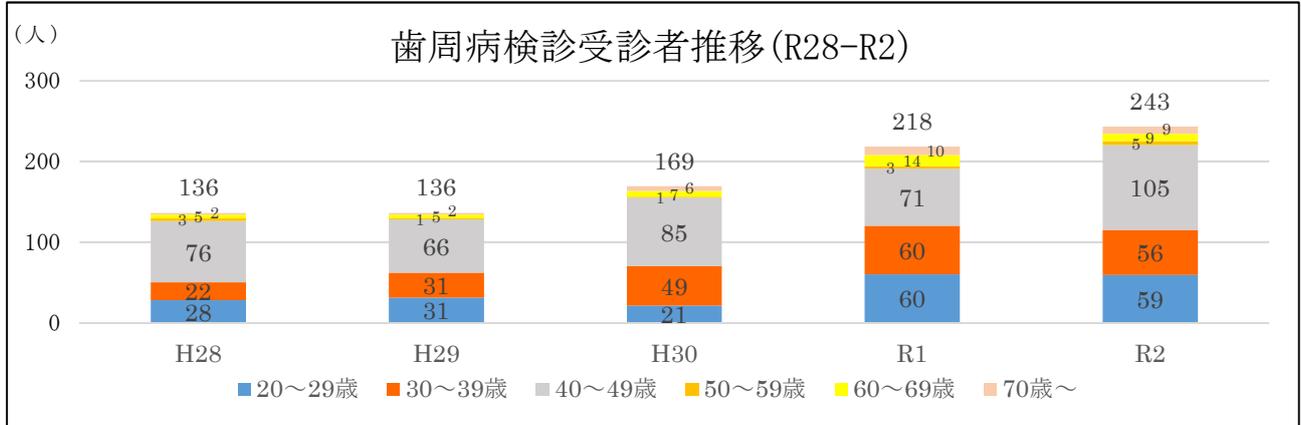
- ・年代別BMIでは40歳代・50歳代が他年代と比較し、高い傾向がある。
- ・特定健診結果によるメタボリックシンドローム該当率は令和元年度が全年齢(40～74歳)で最も高く、年齢が上がれば該当率も高い傾向にある。



資料：国保データベースシステムより

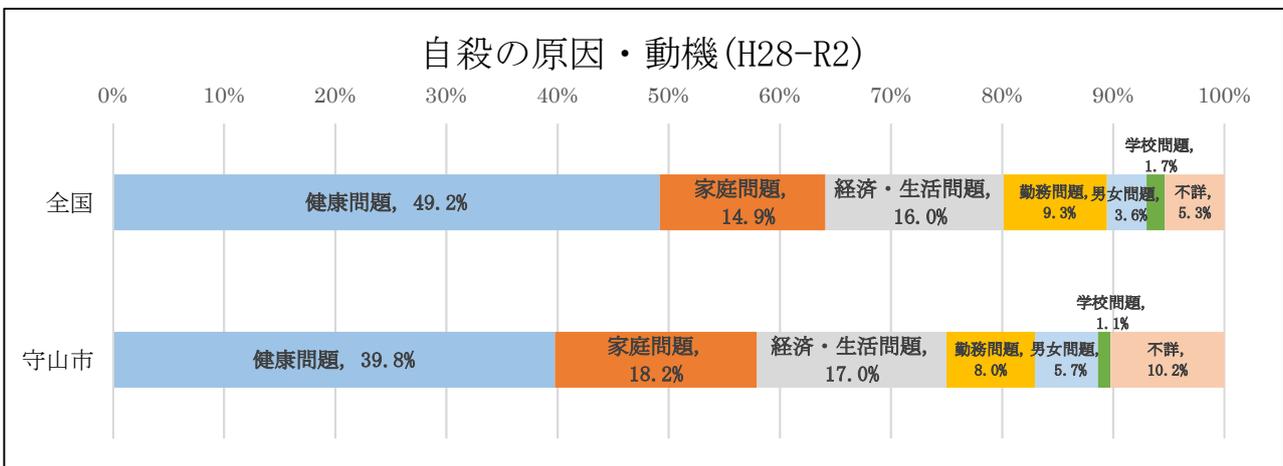
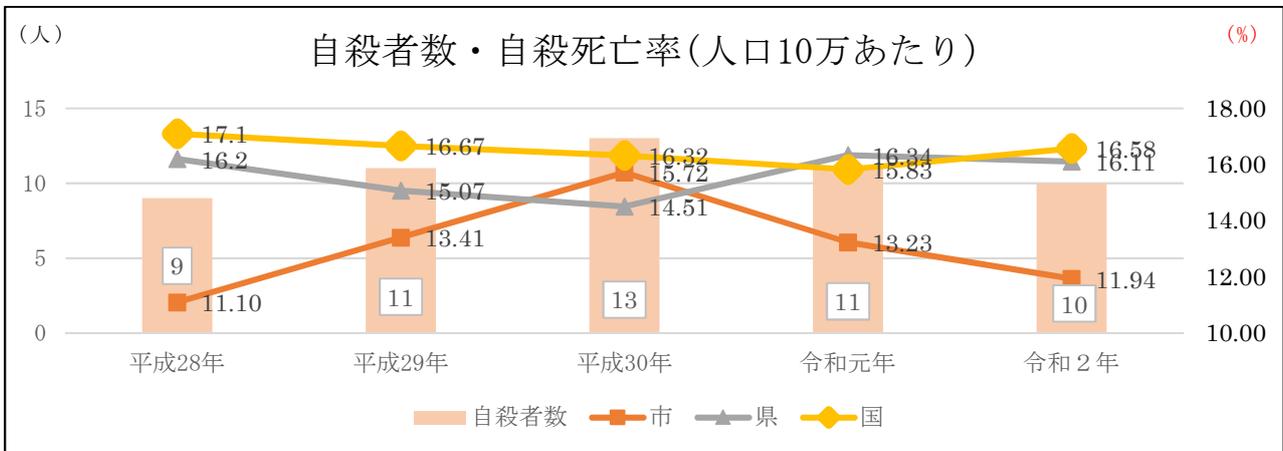
(8) 歯周病検診受診者推移（守山市生涯歯科保健計画）

- ・ 歯周病検診の受診者数は年々増加傾向にある。
- ・ 検診受診対象者は増加しているものの、受診者数は少ない状況であり、歯周病の啓発など積極的な受診勧奨による受診率向上が課題である。



(9) 自殺者数・自殺の動機（守山市自殺対策計画）

- ・ 自殺者数は過去5年間10人前後で推移。自殺死亡率は国・県と比較し、減少傾向
- ・ 本市・全国ともに、自殺の原因・動機は「健康問題」が約4割と高く、次いで「家庭問題」「経済・生活問題」となり、これらの要因が複合的に重なりあっている。

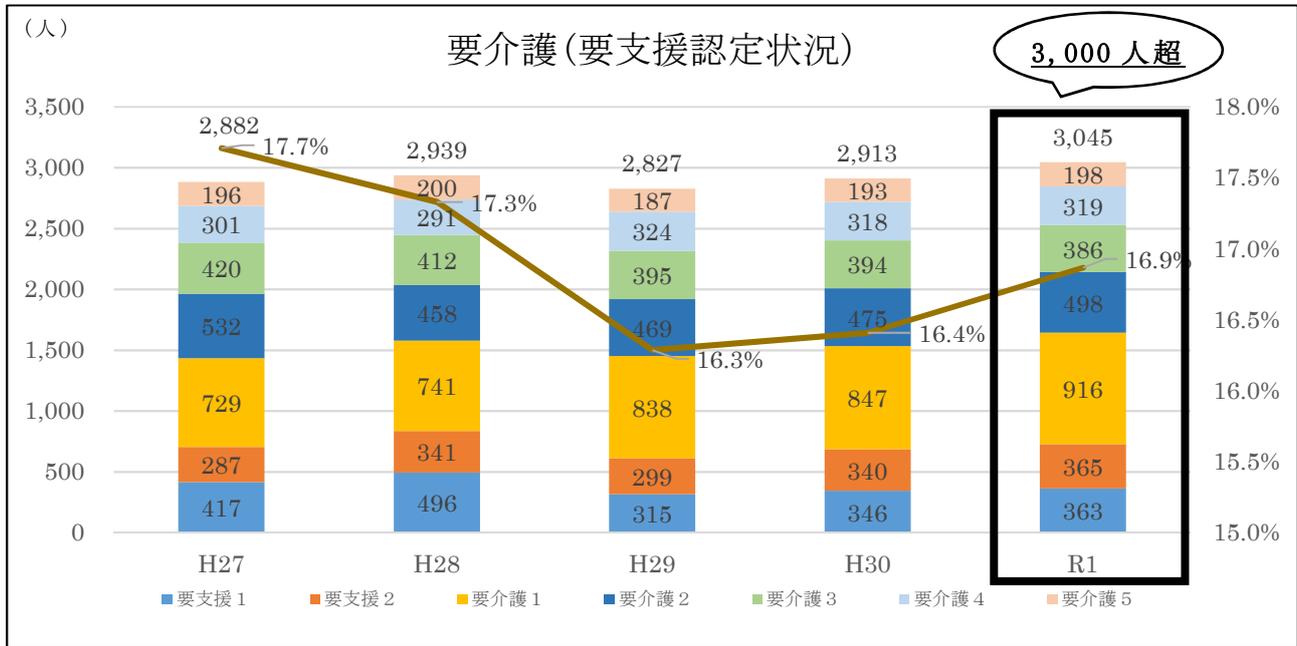


資料：厚生労働省・警察庁「令和2年中における自殺の状況」より  
厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より

(10) 要介護認定者推移（守山いきいきプラン 2021）

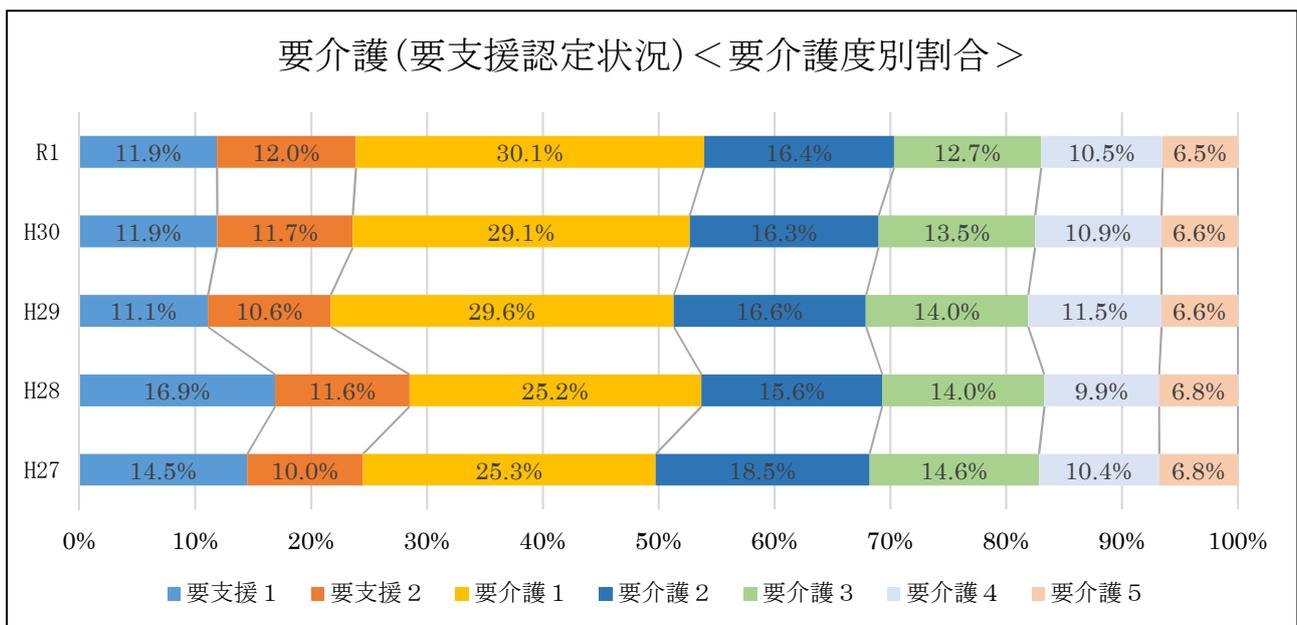
- ・ 要介護認定者数・要介護認定率共に、平成 29 年度を境に上昇傾向にあり、要介護認定者数は令和元年度に 3,000 人を超えた。

※要介護認定率は、各年 3 月末現在の認定者数を第 1 号被保険者数で除した数値



参考：滋賀県南部健康福祉事務所(滋賀県草津保健所)より抜粋

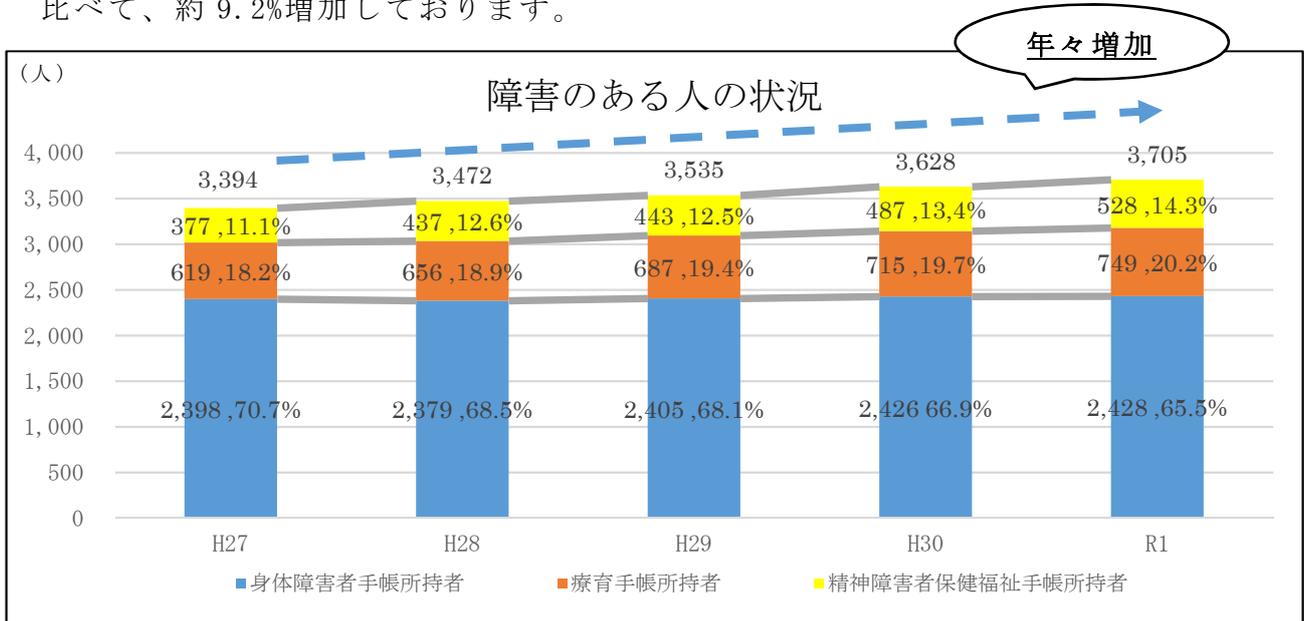
- ・ 令和元年度の要介護度別割合では、要介護 1 の割合が最も高く、次いで要介護 2、要介護 3 となる。また、要介護 1 が全体の 3 割を超える状況である。



参考：滋賀県南部健康福祉事務所(滋賀県草津保健所)より抜粋

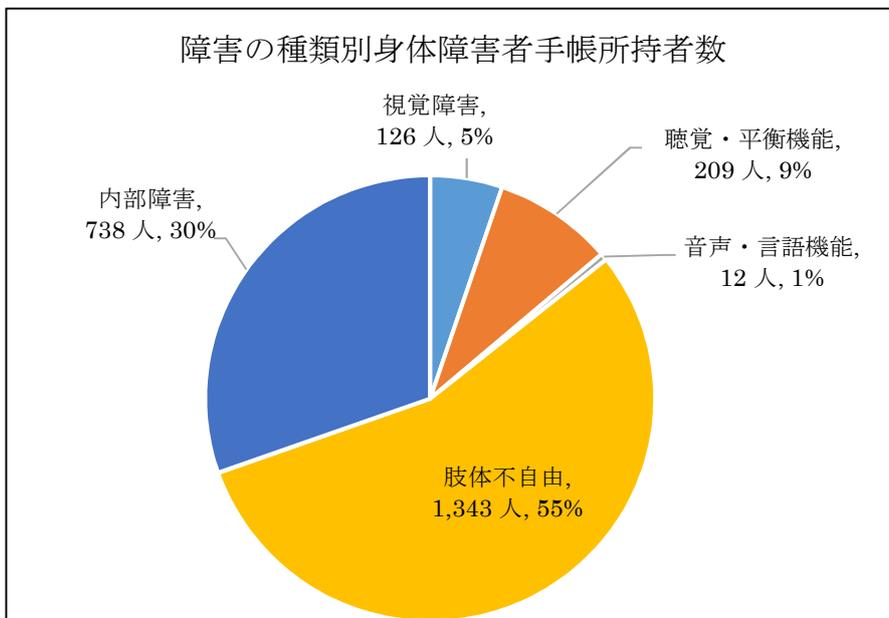
(11) 障害のある人の状況（もりやま障害福祉プラン 2021）

- ・ 障害のある人の数の推移を手帳所持者数で見ると、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は、それぞれ増加傾向にあり、平成 27 年度末と比べて、約 9.2%増加しております。



参考：もりやま障害福祉プラン 2021(令和 3 年 3 月)より抜粋

- ・ 令和元年度末の障害の種類別では、「肢体不自由」が 50%以上と最も高く、次いで「内部障害」が 30%を占めております。



参考：もりやま障害福祉プラン 2021(令和 3 年 3 月)より抜粋

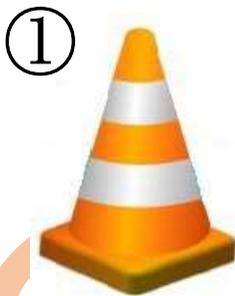
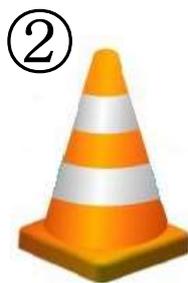
## (12) 現状のまとめ（総論）

- ・人口ビジョンでは、2040年までは人口増加の見通し
- ・現在の40代・50代が60歳以上となる 2040年は高齢化率が約34.9% (+8.1ポイント)
- ・健康寿命は男女ともに国・県を上回り年々延伸している
- ・死因は、生活習慣病（悪性新生物・心疾患・脳血管疾患）に起因するものが多い
- ・医療費総額のうち、生活習慣病が4割を超えている
- ・40代・50代の特定健診受診率は約2割と低く、年齢上昇とともに受診率も上がる
- ・40代・50代のBMI (25.0以上の者)は他年代と比較し、高い傾向がある
- ・メタボリックシンドロームは増加傾向にある。
- ・歯周病検診受診者は増加傾向であるが、受診者数はまだまだ少ない。
- ・自殺者数は横ばい、原因・動機は「健康問題」が約4割。
- ・要介護認定者数は直近の令和元年度に3,000人を超える
- ・障害のある人（障害手帳所持者数）は年々増加傾向

### ※今後想定されるシナリオ

#### ②医療・死因共に生活習慣病

健康寿命は延伸できているものの、医療費の約4割は生活習慣病関連であり、死因においても生活習慣病に起因するものが多い。



#### ①人口増加/急激な高齢化

本市は全国でも少ない人口増加市であるが、20年後には、急激な高齢化が控えている。

#### ④医療・介護・障害 ニーズの著しい増加



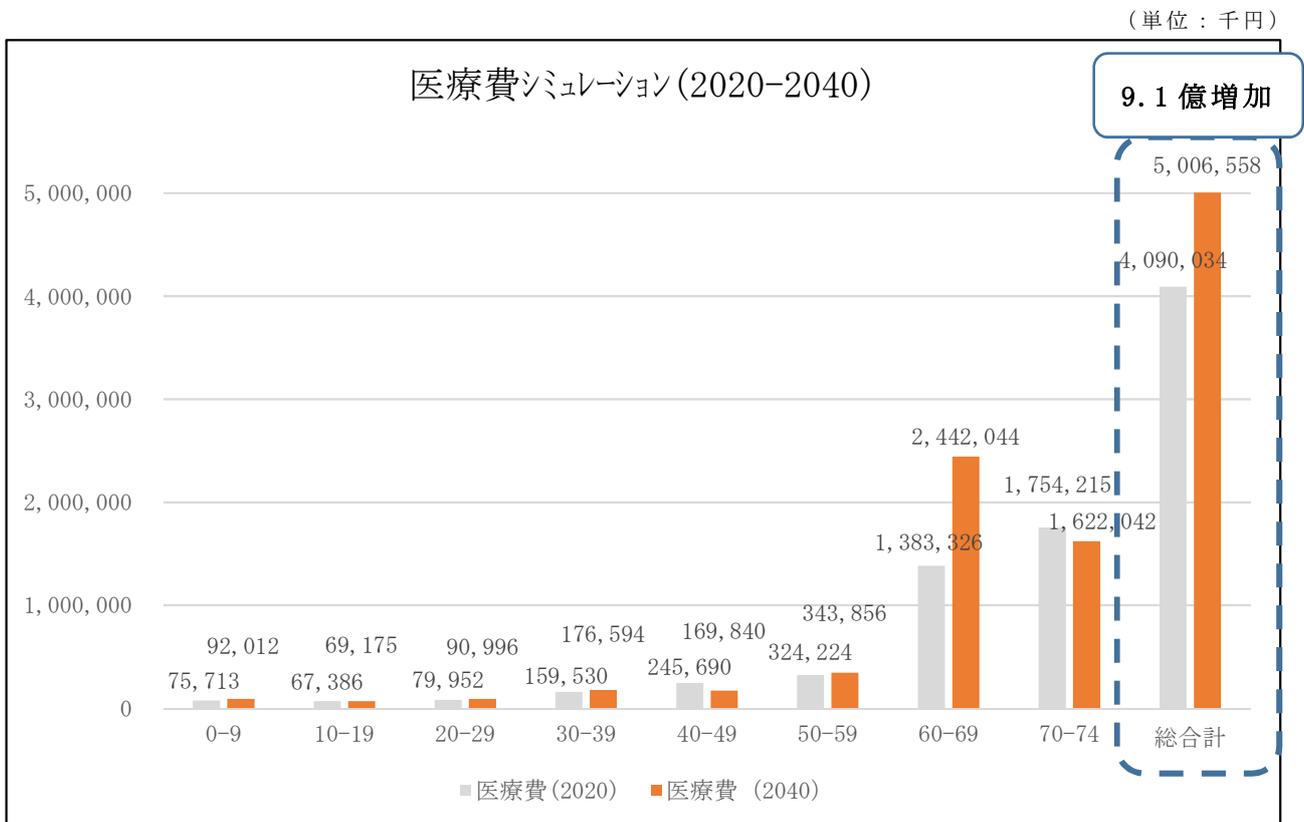
#### ③要介護認定・障害者手帳 所持者数は年々増加

要介護認定・障害者手帳所持者共に年々増加している。

(参考) 医療費シミュレーション(2020-2040)

< 算出条件 >

- ・ 2020 年国民健康保険 医療費負担額を基礎資料とする
- ・ 2040 年医療費シミュレーションは年代別一人あたりの医療費に人口増加を加味し、算出



※本シミュレーションでの医療費は市負担額総額としています。

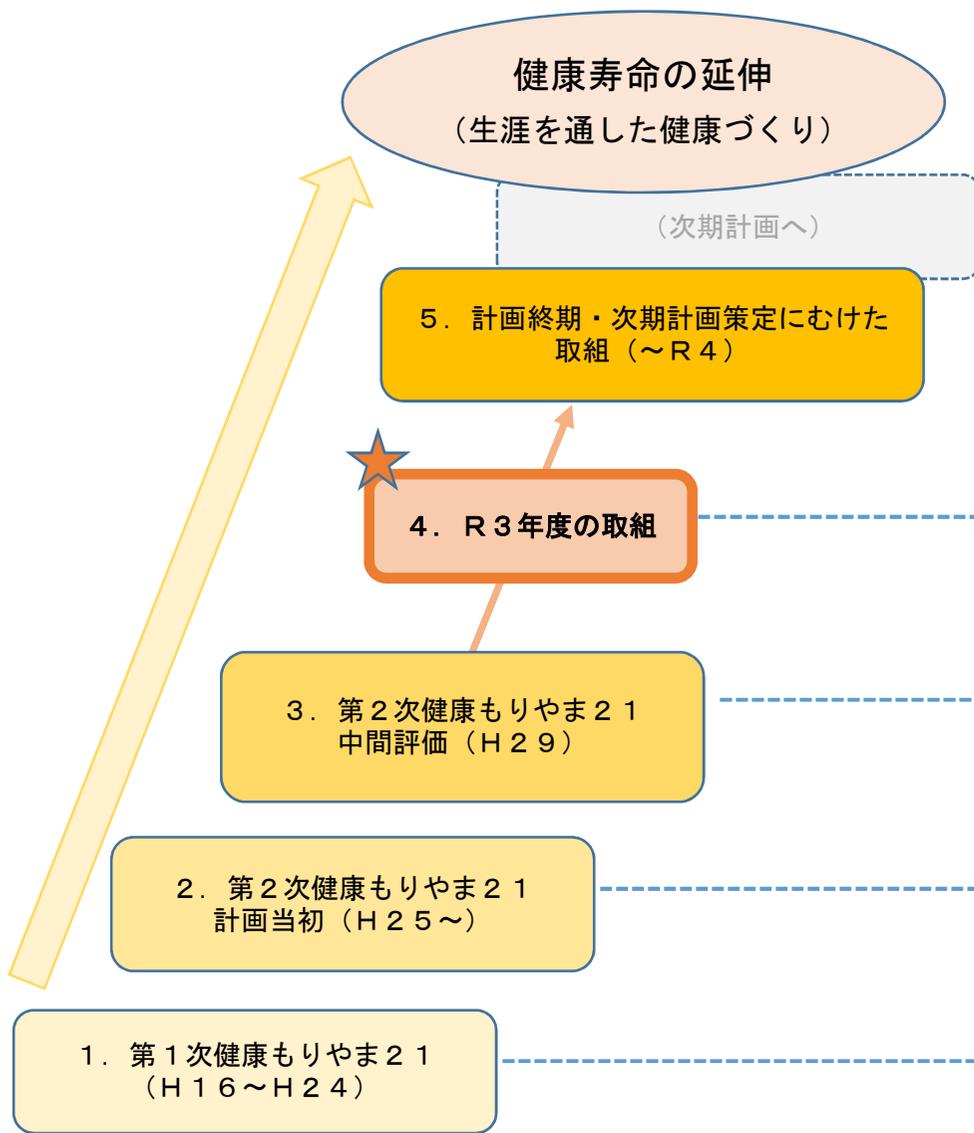
## 2 各健康関連計画の課題と方向性について

項目	主な現状と課題	今後の方向性
第2次健康もりやま 21 (H25～R4)	<p>○総論 健康無関心層や働き盛り世代（主に40代/50代）などへのアプローチが今後重要。 ライフスタイル/ライフステージ(性別年代)別に課題が異なるため、<u>9分野を中心に各々施策を展開</u>する必要がある。</p> <p>○生活習慣病 新型コロナウイルス感染症の影響により、生活様式が変化するなか、<u>生活習慣病予防のため</u>、市民が主体的に健康づくりを行えるよう、<u>知識の普及やきっかけとなる取組</u>が必要。</p> <p>○栄養・食生活 年々<u>栄養や食生活への関心が高まるなか</u>、<u>正しい知識を習得し、実践</u>できる取組が必要。</p> <p>○身体活動・運動 運動は健康づくりの推進や生活習慣病の予防に重要であるが、週1回以上運動を行っている人はまだまだ少ない状況であり、<u>気軽に身近に運動に親しめる取組</u>が必要。</p> <p>○たばこ 法改正（敷地内禁煙や原則屋内禁煙）や受動喫煙防止対策など、<u>たばこの影響や害</u>などについて、市民へ<u>啓発</u>する必要がある。</p> <p>○アルコール <u>飲酒に伴う健康障害</u>についての<u>知識を普及</u>するとともに、関係機関と連携し、依存者の支援に努める必要がある。</p>	<p>○総論 世代や対象者別の特徴を考慮し取組を変えるなど、効果的な健康づくりの普及啓発を推進する。 特に、長期的な視点で<u>健康無関心層や働き盛り世代へは健康に有用な行動変容を促す</u>ための効果的な取組を推進する。</p> <p>○生活習慣病 <u>生活習慣病に関するチラシの配布や健康講座の動画を配信</u>するなど、生活習慣病に対する正しい知識の普及を実施。市民の主体的な健康づくりに寄与するため、健康推進員や自主グループとの連携などを行う。</p> <p>○栄養・食生活 栄養・食生活に関する<u>健康イベント・出前講座の実施や動画の配信</u>、また<u>対面・非対面(ZOOM など)による個別栄養相談</u>など、相談機会の提供を行う。</p> <p>○身体活動・運動 各種<u>スポーツイベントの実施</u>により、運動に親しめる機会を多く提供する。また、<u>スマートフォン等のアプリ(BIWA-TEKU)を活用した健康づくりのきっかけとなる取組</u>を推進する。</p> <p>○たばこ <u>市内小中学校で防煙教室</u>を実施し、たばこについての正しい知識の普及を行う。また、<u>世界禁煙デーなどの啓発イベント</u>に合わせて禁煙を推進する。</p> <p>○アルコール <u>健康教育でアルコールに関する啓発</u>を実施。また、<u>動画配信で節度ある適度なアルコールとの付き合い方</u>などの健康教育を実施する。アルコール関連問題啓発週間に啓発を行う。</p>

項 目	主な現状と課題	今後の方向性
<p>(続き) 第2次健康もりやま 21 (H25～R4)</p>	<p>○<b>歯と口腔の健康</b> 近年、口腔と全身の健康の関係性が重視されるなか、<u>歯周病やむし歯などの予防の取組を強化</u>する必要がある。</p> <p>○<b>健康診査</b> 各健（検）診の数値目標には達しておらず、<u>健（検）診受診率の向上</u>を図る必要がある。</p> <p>○<b>休養・こころの健康</b> <u>新型コロナウイルス感染症の拡大</u>やこれに伴う<u>行動制限、生活環境の変化</u>などによる<u>ストレスの増加</u>により、あらゆる世代で心理面に大きな負担が掛かっていることから、相談・支援体制の充実を図る必要がある</p> <p>○<b>いきがい・ふれあい</b> 子どもから高齢者までの様々な世代が、地域でふれあえる場作りやいきがい活動の推進が必要。</p>	<p>○<b>歯と口腔の健康</b> 感染症対策を講じたうえでの、<u>フッ化物洗口の実施や若年期からの虫歯予防啓発</u>を実施。歯周病検診は継続受診につながる方策の検討を行う。</p> <p>○<b>健康診査</b> 特定健診やがん検診などの健（検）診受診率の向上を図るため、<u>AI分析やナッジ理論などを活用した効果的な受診勧奨</u>を推進する。</p> <p>○<b>休養・こころの健康</b> <u>相談窓口の拡充</u>のため、これまで実施していた<u>電話・対面での相談に加え、WEBでの相談</u>を開始。</p> <p>○<b>いきがい・ふれあい</b> いきがい活動を推進している団体と協力して、様々な世代のいきがい創設に努める。</p>
<p>守山市食育推進計画 (H28～R4)</p>	<p>○食育に興味が少ない<u>男性や若者層に、食や栄養に関する啓発</u>活動を行う必要がある。</p> <p>○食文化の継承や健康な生活を送る上でとても大切な和食（日本型食生活）を推進する取組が必要。</p> <p>○<u>重要課題である生活習慣病対策</u>として、生活習慣病の発症予防・重症化予防につながる具体的な食事改善の知識や技術に関する継続的な取組が必要。</p>	<p>○<u>児童・生徒や保護者への学校通信による啓発、ICTを活用した情報提供</u>など関係機関・団体と連携し、<u>次世代への食育教育</u>を推進する。</p> <p>○健康相談や健康教育などを通じた和食（日本型食生活）の推進、市の伝統野菜（矢島かぶら・笠原しょうが）などの食文化を継続的に伝えていける取組を学校や地域において推進する。</p> <p>○食事改善につながる<u>レシピ集の提供や健康相談・保健指導</u>を通じた食事・栄養指導により、<u>生活習慣病対策を推進</u>する。</p>

項 目	主な現状と課題	今後の方向性
守山市自殺対策計画 (H31～R4)	<p>○令和2年の<u>全国自殺者数</u>は11年ぶりに<u>増加</u>。(本市の自殺者数は横ばい)</p> <p>○本市では、<u>40～50歳代の自殺者数</u>が多く、<u>健康問題・家庭問題の原因</u>が多い。</p> <p>○<u>若年層の自殺死亡率</u>は国・県と比較し依然として<u>高い</u>。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、<u>経済問題・健康問題・家庭問題</u>などについての<u>相談件数が増加</u>していることから、<u>関係機関と連携し、支援</u>を行う。</p> <p>○<u>教育機関などと連携</u>し、子ども・若者が相談しやすい環境づくりを行い、教職員へのゲートキーパー研修等により子ども・若者への支援を強化する。</p> <p>○<u>重層的支援体制</u>の枠組みのなかで、<u>あらゆる相談を受け止め</u>、制度の狭間にあるケースや複雑なケースに対応し、<u>相談者に寄り添った支援</u>を行う。</p>
守山市生涯歯科保健計画 (H26～R4)	<p>○かかりつけ医などでの<u>定期的な検診(歯科健診含む)の必要性</u>が十分認識されていない。</p> <p>○<u>若年層からの歯科口腔管理</u>が必要。</p> <p>○歯や口腔の健康づくりに対する意識を高め、予防や受診行動がとれるための環境づくりが必要。</p>	<p>○特定健診実施時に歯周病検診の啓発を行うなど、<u>検診(歯科検診含む)の受診率向上</u>に向けた効果的な取組を推進する。</p> <p>○<u>中学校での健康教育</u>など、むし歯や歯周病予防についての啓発を行う。</p> <p>○歯科医師会や介護支援専門員等の専門職、障害のある人の家族、その他関係機関に対し、<u>歯科健康教育を推進</u>する。</p>
(参考) すこやかまちづくり 行動戦略 (H28～R2 終了)	<p>○<u>若年層や働き盛りの世代</u>などは<u>健康への関心が低く</u>、健康に関する知識の普及啓発が必要。</p> <p>○市民の約3割が運動を行っていないなど、<u>運動の習慣づけ</u>のきっかけとなる取組が必要。</p> <p>○<u>健康の意識は高まっているが、健康であると感じている人の割合は低く</u>、<u>個々人の具体的な取組改善には至っていない</u>。</p>	<p>○健康に無関心な人など、<u>個々人の具体的な行動変容につながるよう支援</u>する。</p> <p>※令和2年度が計画の終期であるため、これまでの取組や課題は、健康もりやま21やその他の関連計画に継承</p>

## 目指す姿（健康寿命の延伸）に向けた経過

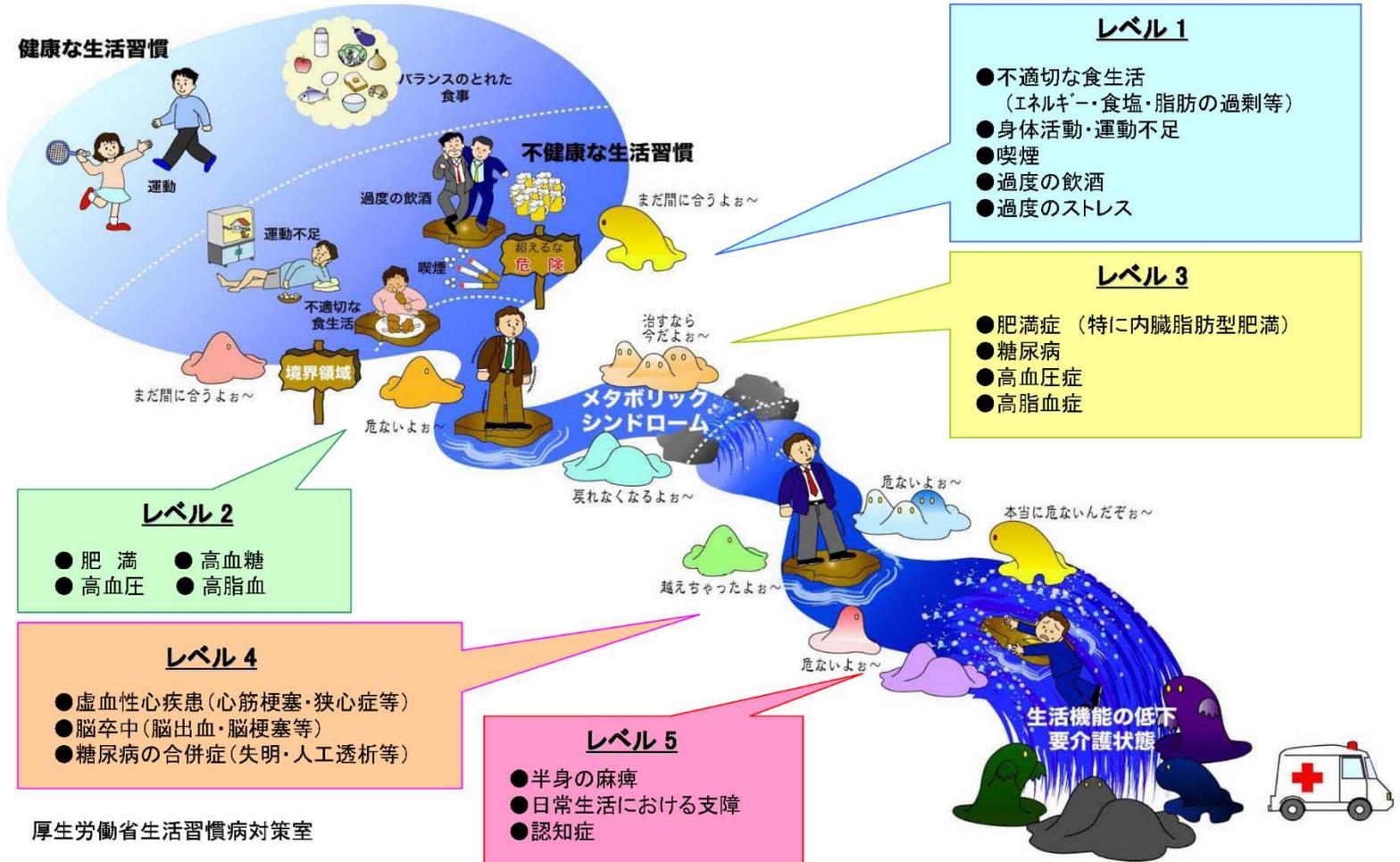


## 重点プロジェクト

昨年度まで推進した「すこやかまちづくり行動戦略」や健康関連計画の課題、新型コロナウイルス感染症の影響など、健康への関心が高まるなか、健康寿命の延伸に向けた健康づくりを推進するため、令和3年度は、以下の取組を重点的に推進する。

- 働き盛り世代・無関心層に向けたアプローチ
- ICTを活用した健康づくりの推進
- 健(検)診受診率向上プロジェクト
- みんなで健康200日チャレンジ!!事業
- 健康意識向上のための取組
- 栄養バランスの良い食生活をするための取組
- ライフステージ別健康づくり
- ワーキンググループによる健康づくり活動

# 生活習慣病のイメージ



<参考>すこやかまちづくり行動戦略最終評価結果より（平成28年度～令和2年度）

<図1：すこやかまちづくり行動戦略の最終評価を踏まえた今後の方向性について

